

【今日の説教から】

この章の初めにこういう書き出しがありました。「わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである」そして彼は読者に目標の設定をしました。

今日の個所にも「あなたがたにこれを書きおくる(おくれた)のは…」との語りかけが6回も出てきます。かつて書き送ったが、今も書き送る。あなたがたの多くの罪が赦されたから。あなたがたが初めからいますかたを知ったから。神の言葉があなたがたに宿り、悪しき者に打ち勝ったから。

子たちよ、父たちよ、若者たちよと繰り返し語られます。

初めからいます創造主を知り、その言葉があなたの内に宿るなら、多くの罪が赦され、悪しきものに打ち勝つから、古いも若きも神様のもとに来たりて、そして聞きなさい、世と世にあるものを愛してはならない、世にあるもの、肉の欲、目の欲、持ち物の誇りは世から出たものであり、それらは過ぎ去るから、父の愛の中にあり、父から出るものを望み、神のみ旨を行いなさい、そうすれば父の愛は彼の内にあり、目の向けどころが正しければ父から出た良きものを享受し、世と世にある者は過ぎ去っても、神のみ旨を行う者は永遠に永らえるから、目の付け所に用心しなさい、あなたは神を知り、罪赦され、御言葉により悪しきものに打ち勝ったのだから、その中を進み続けなさいと御言葉は私たちに語りかけます。

皆様おはようございます。また雪積もる朝を迎えました。一週間お元気にお過ごしでしたでしょうか。

1 ヨハネ 2 章を読み進めております。

1 節にはこう書いて荒れました。

「わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。」

ヨハネがこの手紙をしたための理由。読者に悟ってもらいたいこと。これが罪を犯さないようになるということです。

今日の個所の中にも、悪しき者に打ち勝つとか、世とか、世にあるものとか、肉の欲、目の欲、持ち物の誇とか、世と世の欲とは過ぎ去ると書いてありました。ここにある「世」ということを考える時、2 コリント 4 章の御言葉が思い出されます。4 節には「この世の神」という言葉があります。

2 コリント 4:1 このようにわたしたちは、あわれみを受けてこの務についているのだから、落胆せずに、

4:2 恥ずべき隠れたことを捨て去り、悪巧みによって歩かず、神の言を曲げず、真理を明らかにし、神のみまえに、すべての人の良心に自分を推薦するのである。

4:3 もしわたしたちの福音がおおわれているなら、滅びる者どもにとっておおわれているのである。

4:4 彼らの場合、この世の神が不信の者たちの思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光の福音の輝きを、見えなくしているのである。

4:5 しかし、わたしたちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝える。わたしたち自身は、ただイエスのために働くあなたがたの僕にすぎない。

4:6 「やみの中から光が照りいでよ」と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。

4:7 しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。

4:8 わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。

4:9 迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。

4:10 いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。

4:11 わたしたち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されているのである。それはイエスのいのちが、わたしたちの死ぬべき肉体に現れるためである。

4:12 こうして、死はわたしたちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのである。

4:13 「わたしは信じた。それゆえに語った」としてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っているので、わたしたちも信じている。それゆえに語るのである。

4:14 それは、主イエスをよみがえらせたかたが、わたしたちをもイエスと共によみがえらせ、そして、あなたがたと共にみまえに立たせて下さることを、知っているからである。

4:15 すべてのことは、あなたがたの益であって、恵みがますます多くの人に増し加わるにつれ、感謝が満ちあふれて、神の栄光となるのである。

4:16 だから、わたしたちは落胆しない。たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。

4:17 なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。

4:18 わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。

世といたしましても、創世記において神様は、この世界を大変素晴らしい所として創造されました。しかし人の罪により、地は呪われ、労苦しながら糧を得なければならないようになりました。

創世記 3:17 更に人に言われた、「あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど、わたしが命じた木から取って食べたので、／地はあなたのためにのろわれ、／あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。

3:18 地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ、／あなたは野の草を食べるであろう。

3:19 あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る、／あなたは土から取られたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る」。

本来は創造者なる神様だけがおられたのに、「この世の神」という言葉が出て来るというのは、人を唆して軌道を外させようとする悪しき者が王として君臨する偽りの王国、嘘と偽善とで塗り固められた、人を唆して自分の民としようともがく悪魔の世がこの世界に充満しているということを意味します。

私たちクリスチャンは、言うまでもなくその「世」の住人ではありません。しかしその雰囲気立ち込める「世」の影響は日々強いものがあり、それに乗せられて神様から離れることがないようにとの教えがここにはあります。

ここにはうめきがあります。私たちの弱さのゆえに私たちは揺らぎます。そして産みの苦しみを、被造物全体と共にしているのです。

ローマ 7:22 すなわち、わたしは、内なる人としては神の律法を喜んでいるが、

7:23 わたしの肢体には別の律法があつて、わたしの心の法則に対して戦いをいどみ、そして、肢体に存在する罪の法則の中に、わたしをとりこにしているのを見る。

7:24 わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。

7:25 わたしたちの主イエス・キリストによって、神は感謝すべきかな。このようにして、わたし自身は、心では神の律法に仕えているが、肉では罪の律法に仕えているのである。

ローマ 8:18 わたしは思う。今のこの時の苦しきは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。

8:19 被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる。

8:20 なぜなら、被造物が虚無に服したのは、自分の意志によるのではなく、服従させたかたによるのであり、

8:21 かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。

8:22 実に、被造物全体が、今に至るまで、共にうめき共に産みの苦しみを続けていること

を、わたしたちは知っている。

8:23 それだけではなく、御霊の最初の実を持っているわたしたち自身も、心の内でうめきながら、子たる身分を授けられること、すなわち、からだのあがなわれることを待ち望んでいる。

8:24 わたしたちは、この望みによって救われているのである。しかし、目に見える望みは望みではない。なぜなら、現に見ている事を、どうして、なお望む人があろうか。

8:25 もし、わたしたちが見ないことを望むなら、わたしたちは忍耐して、それを待ち望むのである。

8:26 御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。

このような困難と葛藤の中、しかし諦めずに、希望を失わずに進むべきことをヨハネは語ります。

2:12 子たちよ。あなたがたにこれを書きおくるのは、御名のゆえに、あなたがたの多くの罪がゆるされたからである。

罪は赦されているよ、子供たち。力弱き子どもたちよ、力がない、経験がない、判断力がないと言って嘆くな。あきらめるな。あなたの罪は赦されているから。あなたはもう罪の縄目にはつながれていない。もう自由であり、自分の舌以前を行うことができるのだ。

コロサイ 1:11 更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び、

1:12 光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。

1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。

1:14 わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。

2:13 父たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、悪しき者にうち

勝ったからである。

この世界は神様と力を二分する悪しき者の世？この世界の王は、その実権をほしいままにし、権力を手中にしたのは悪魔？とんでもない。父たちよ。世の中のことを経験し、経験すればするほど、悪しき力、負の力を感じさせられ、それに抗っても何になるだろうかというあきらめが生じ、長い物には巻かれろと、正しさを通す気力を失ってしまった者たちよ。初めからいます方を知っているのではないか。この方が無から有を作り出された方であり、光と希望と命を造られた愛の方ではなかったか。この方を知るようになったのだから、あきらめてはならない。

若者たちよ、血気盛んな若者たちよ。信仰心に満ちて世の中を光の輝くところにしようと願う者たちよ。わたしはあなたに書き送る。あなたは悪しき者に打ち勝ったのだ。

ヨハネ 16:32 見よ、あなたがたは散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとりだけ残す時が来るであろう。いや、すでにきている。しかし、わたしはひとりであるのではない。父がわたしと一緒におられるのである。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

2:14 子供たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが父を知ったからである。父たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが強い者であり、神の言があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき者にうち勝ったからである。

子どもたちよ、あなたは父を知っている。あなたは力のない子どもであるかもしれない。それならば父なる神様にすがりなさい。あなたを子として扱い、愛して育てて下さる方がおられる。

ヘブル 12:5 また子たちに対するように、あなたがたに語られたこの勧めの言葉を忘れている、／「わたしの子よ、／主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。

12:6 主は愛する者を訓練し、／受け入れるすべての子を、／むち打たれるのである」。

12:7 あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。

父たちよ、かつてからあなたに書いているではないか。この世の神は空しき者。そして神と呼ばれる方はただお一人。初めからいますお方ただお一人である。

若者たちよ。あなたは信仰に力強い者。神の言葉を宿し続けるのならば、あなたは悪しき者に打ち勝つであろう。

ヨハネ 8:31 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

2:15 世と世にあるものごとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。

2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。

2:17 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

ルカ 16:13 どの僕でも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない」。

16:14 欲の深いパリサイ人たちが、すべてこれらの言葉を聞いて、イエスをあざ笑った。

16:15 そこで彼らにむかって言われた、「あなたがたは、人々の前で自分を正しいとする人々である。しかし、神はあなたがたの心をご存じである。人々の間で尊ばれるものは、神のみまえでは忌みきらわれる。

マタイ 6:24 だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

6:25 それだから、あなたがたに言う。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取りいれることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばす

ことができようか。

6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

私たちの生きるこの世の中での成功、映画、持てるもの、それが全てではないと聖書は語ります。良い学校に行って、良い就職をして、起業して、高給取りになって豪邸で過ごす。それが勝ち組であり、お金のためなら手段を選ばない、犯罪でもなんでも、お金持ちになれば勝ち組であり、正義であるという、拝金主義が横行しています。

2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。

2:17 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

それらの栄華は過ぎ去る霧に過ぎません。それらは一時のものであ、過ぎ去るのです。神の国を第一とし、御言葉を愛し、神様のみ旨に生きる。これが私たちが永遠に生きながらえる道です。この道に導き入れられていることに感謝し、この道を愛し、この道を進み続けたいと願います。

詩篇 1:1 悪しき者のはかりごとによらず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。

1:2 このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う。

1:3 このような人は流れのほとりに植えられた木の／時が来ると実を結び、その葉もしばまないように、そのなすところは皆栄える。

1:4 悪しき者はそうでない、風の吹き去るもみがらのようだ。

1:5 それゆえ、悪しき者はさばきに耐えない。罪びとは正しい者のつどいに立つことができない。

1:6 主は正しい者の道を知られる。しかし、悪しき者の道は滅びる。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。昔も今も、今も未来も、私たちのために多くの主のお守りと赦しと恵みが注がれていますことに、心から感謝いたします。多くの罪が赦され、悪しき者に打ち勝ち、神様を知る者とされたことを、そして儂く過ぎ去る者から目を解き放ち、永遠に生き続けることの出来るように導く神の御心を理解し、それを行うことが出来るようにと導いて下さいまして、本当にありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン